

市産業支援センターに3社の入居決定

うち1社は未来大学との共同設立企業でAI関連ソフト開発等

函館市産業支援センターは、同センター内のデザイン開発室を廃止し、プレインキュベータールーム（貸研究事務室）として入居企業等を募集していたが、この度、3社の入居が決定した。これらは、(有)ソワレ・インターナショナル、(株)デジタライズ、(株)A1ハヤブサの3社で、このうち、A1ハヤブサは人工知能（AI）に知見のある公立はこだて未来大学と共同で設立されたベンチャー

企業。AIと画像処理の技術を組み合わせ、検査に特化したソフトウェアの開発・販売を行う。

また、今回、入居が無かった残り1室については、後日、再度入居募集する予定。

函館市産業支援センターは、インキュベーション・マネージャーによる経営支援や円滑な事業展開支援、設備の一般開放、産学官連携等で不安を解消し、スムーズなスタート体制を整えている。創業時は、資金に余裕がなく、低料金で利用できる部屋はニーズが高くなっている。

新しい技術開発に取り組む人向けに、セキュリティ対策済みの長時間利用可能な貸研究事務室となる。同一棟内のため、共有設備もスムーズに活用可能。インキュベーターマネージャーのサポートや地域企業との交流、隣接する北海道立工業技術センターと連携した取り組み等、起業時に必要な環境を提供出来る。新入居の3社の詳細は次の通り。

▼(有)ソワレ・インターナショナル

(川西市栄町10番5号)

・資本金 500万円

・設立 平成12年9月21日

・代表取締役 澁谷 恵子氏

・従業員 15名

▽事業計画

函館地域の豊富な海藻資源を活用し、その有効成分を配合した高付加価値な化粧品等の製造に関する研究及び事業立地調査を行う。今後、函館の産学官が連携し、海藻の有効活用や産業化を図る目的で発足された「海藻活用研究会」の理事として積極的に調査研究を行い、来年以降、製造販売を予定している。

▽入居施設の状態

・プレインキュベータールーム（A1）

1）
・使用期間 平成29年4月1日
〜平成32年3月31日

▼(株)デジタライズ

(名古屋市名東区上社2丁目186)

・資本金 2、315万円

・設立 平成13年3月1日

・代表取締役 柴田 幸彦氏
・従業員 35名

▽事業計画

自社のビッグデータを活かし、データの解析と人工知能（AI）を組み合わせることで顧客のニーズに応じた業務改善のシステムについて、研究開発を行う。今後、公立はこだて未来大学と連携を開始し、サーバー構築やシステムの試験導入を経て来年度には製品販売を予定している。

▽入居施設の状態

・プレインキュベータールーム（A1）

2）
・使用期間 平成29年4月1日
〜平成32年3月31日

▼(株)A1ハヤブサ

(函館市桔梗町379-32同センター内)

・資本金 500万円

・設立 平成29年3月16日

・代表取締役 村松 洋明氏

取締役 松原 仁氏（公立はこだて未来大学教授）

▽事業計画

人工知能（AI）に知見のある公立はこだて未来大学と共同でベンチャー企業を設立し、AIと画像処理の技術を組み合わせ、検査に特化したソフトウェアの開発・販売を行

う。将来的には、幅広い分野で活用できるソフトウェアのプラットフォームの開発や検査装置の製造も視野に入れた事業を行う。

▽入居施設の状態

・プレインキュベータールーム（B1）

2）
・使用期間 平成29年4月1日
〜平成32年3月31日

入居の対象は、

・研究開発型企業または研究開発に取り組むテーマをもっており、事業化のための研究開発を行おうとしている人。

・高度な技術を保有する企業で工場等を設置しようとする企業。

・高度な技術の設備を導入し、創業しようとする人。

入居想定業種は、

・情報処理サービス業

・ソフトウェア業

・デザイン業等

など。